

# 第一時課

來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

## 第5聖詠

主よ、我が言を聴き、我が思を悟れ。我が王我が神よ、我が呼ぶ聲を聴き納れ給へ、我爾に祈ればなり。主よ、晨に我が聲を聴き給へ、我晨に爾の前に立ちて待たん。蓋爾は不法を喜ばざる神なり、悪人は爾に居るを得ず、不虔の者は爾が目の前に止まらざらん、爾は凡そ不法を行ふ者を憎む、爾は謊を言ふ者を滅さん、殘忍詭譎の者は主之を惡む。惟我爾が憐の多きに倚りて爾の家に入り、爾を畏れて爾が聖堂に伏拜せん。主よ、我が敵の爲に我を爾の義に導き、我が前に爾の道を平にせよ。蓋彼等の口には眞實なく、彼等の心は惡逆、彼等の喉は開けたる柩、其舌にて媚び諂ふ。神よ、彼等の罪を定め、彼等をして其謀を以て自ら敗れしめ、彼等が不虔の甚しきに依りて之を逐い給へ、彼等爾に逆らえばなり。凡そ爾を頼む者は喜びて永く樂み、爾は彼等を庇ひ護らん、爾の名を愛する者は爾を以て自ら詔らんとす。蓋主よ、爾は義人に福を降し、恵を以て盾の如く彼を環らし衛ればなり。

## 第89聖詠

主よ、爾は世世に我等の避所たり。山未だ生ぜず、爾未だ地と全世界とを造らざる先、且世より世までも爾は神なり。爾人を塵に歸らしめて曰う、人の子よ、歸れと。蓋爾が目の前には、千年は過ぎし昨日の如く、夜間の更の如し。爾は大水の如く彼等を流す、彼等は夢の如く、朝に生ふる草の如し、朝には花さきて且青し、暮には刈られて稿る。蓋我等は爾の怒に因りて消え、爾の憤に因りて惶れ惑ふ。爾は我等の不法を爾の前に置き、我等の隠れたる事を爾が顔の光の前に置きり。我等が悉くの日は爾が怒の中に過ぎ、我等は我が年を失ふこと音の如し。我が年の数は七十年、或は健全なれば八十年なり、其間の壮なる時も、劬勞と疾病あり、蓋其過ぐることに速にして、我等飛び去る。誰か爾が怒の力を知り、又爾を畏るる度に依りて爾の憤を識らん。願はくは我等に我が日を算ふることを教へて、智慧の心を獲しめ給へ。主よ、面を回せ、何の時に至るか、爾の僕を憐み給へ。夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代えて、我等を樂しましめ給へ。願はくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作进行を我等に助け給へ、我が手の工作进行を助け給へ。

### 第100 聖詠

我憐と審判とを歌はん、主よ、爾に歌を奉らん。我玷なき道を思はん、爾何の時我に至るか、我玷なき心を以て我が家の中を行かん。我が目の前には邪なる物を置かざらん、法に背く行は我之を疾む、其れ必我に附かざらん。壊れし心

は我に遠ざかり、悪しき者は我之を識らざらん。隠に己の隣を誘る者は我之を逐ひ、目傲り、心高ぶる者は我之を容れざらん。我が目は斯の地の忠信なる者を顧みて、彼等を我が傍に居らしめん、玷なき道を行く者は我に事えん。貳心を行ふ者は我が家に居るを得ず、謊を言ふ者は我が目の前に止まらざらん。晨に我此の地の悉くの不虔者を滅して、凡そ不法を行ふ者を主の城邑より絶たれしめん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「アリルイヤ」「アリルイヤ」「アリルイヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

主憐めよ。三次

【一時課の讃詞】 第六の調。(歌ふ時句毎に伏拜する)

司祭 吾が王吾が神よ、晨に我が聲を聽き給へ。(詠) 吾が王吾が神よ、晨に我が聲を聽き給へ。

(句) 主よ、我が言を聽き、我が思を悟れ。(詠) 繰り返す

(句) 主よ、我爾に禱ればなり。(詠) 繰り返す

司祭 光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」。



嗚呼 恩寵に満たさるる者よ、我等何を以て爾を稱せんか、天とせん、爾義の日を照したればなり、樂園とせん、爾枯れ

ざる花を開きたればなり、童貞女とせん、爾貞操を壊らざればなり、淨き母とせん、爾聖なる懐に萬物の神たる子を抱き

たればなり、彼に我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

(詠) 【トロパリ】 6調(楽譜は下)

我が足を爾の言に固め給へ、諸の不法の我を制すを許す母れ。  
我を人の迫害より救ひ給へ、然せば我爾の命を守らん。  
爾が顔の光にて爾の僕を照し、爾の律を我に誨へ給へ。  
主よ、願くは我が口は讚美に満てられて、我爾の光榮を歌ひ、  
日々に爾の威嚴を歌はん。

我が足を爾のことばに固め たまえ  
諸々の不法の我を制するを許す なかーれ  
我を人の迫害より救い たまーえ しかせば我爾の命を  
まもらん 爾がかんばせの光にて爾の僕を 照らーし  
爾のおきてを我に おしえ たまーえ  
主よ、願くは我が口は爾の讚美に満てられて  
我爾の光榮をうたーい 日々に爾の威嚴をうたわん

誦經 聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

月曜日、火曜日、木曜日 ※曜日で替わる

我等黙さず心と口にて聖なる天使よりも聖にして、至りて光榮なる神の母を歌ひ、之を承け認めて生神女と爲す、其實に人體を取りし神を生みて、恒に我等の靈の爲に禱り給へばなり。

水曜日、金曜日

※曜日で替わる

ハリストス吾が神よ、疾く先んじて、爾を誹り、我等を阻める敵の我等を擄にするを許す勿れ、獨人を愛する主よ、生神女の祈祷に依りて、爾の十字架を以て、我等と戦ふ敵を亡し、彼等に正教の者の信が如何なる能あるを悟らしめ給へ。

主憐めよ。十二次

何の日何の時に、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讚む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らし、我等に福を降し、爾が顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。  
誦経 「アミン」。

司祭【聖エフレムの祝文】

主吾が生命の主幸よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる母れ。叩拜一次

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世に崇め讃めらる「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。(叩拜二次)

主吾が生命の主幸よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる母れ。貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の

僕に與へ給へ。嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを給へ、蓋爾は世に崇め讃めらる、「アミン」。叩拜

一次

司祭 眞の光なるハリストス、凡そ世に來る人を照し且聖にする者よ、願はくは爾が顔の光は我等に輝き、我等は是

に依りて近づき難き光を見るを得ん、願はくは爾が至浄の母と、爾が諸聖人の祈祷に因りて、我等の足を爾の戒を行ふ

に向はしめ給へ、

(詠)「アミン」。

【生神女のコンダク】生神女よ、我等爾の僕婢は

禍より援けられしを以て、爾克く勝つ将帥に凱歌と

感謝とを奉る、勝たれぬ権能を有つに依りて、

我等を諸の苦難より救ひ、爾を歌ひて嫁ならぬ嫁よ

、慶べと呼ばしめ給へ。

司祭 ハリストス神、我等の恃よ、光榮は爾に歸す、

光榮は爾に歸す。

(詠) 光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に「アミン」。

主憐め、主憐め、主憐めよ。福を降せ。

司祭 【發放詞】

ハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母の祈祷と

、無形なる尊き天軍、光榮にして讚美たる聖使徒、

聖(某) 本堂及び本日聖人、聖にして義なる神の祖父母

イオアキム及びアンナ、及び諸聖人の轉達に因りて、

我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

(詠) 「アミン」(二時課で終わる場合は万寿詞を歌う)

神よ、我が国の天皇及び国を司る者、我等の

府主教ダニイル、及び悉くの正教の

「ハリストティアニン」等を幾歳にも護り給へ。

生神女や われら 爾の僕婢は わざわいより  
たすけられしをもつて 爾克く勝つの将帥に  
凱歌と感謝を たてまつる 勝たれぬ ちからを  
保つによつて われらをもろもろの  
苦難よりすくい 爾をうたうて よめならぬ よめや  
慶べよと 呼ばしめたまえ  
光榮は 父と子と 聖神に歸す、今も 何時も世々に アミン  
主憐れめよ、主憐れめよ、主あわれめよ ふくを くだせ